

人文書仕入れご担当様

いつもお世話になっております。ファクスお借りして恐縮です。ご発注よろしくお願いたします。
書肆心水 FAX 03-6677-0682

批判的マルクス入門

7月下旬刊

小泉信三

“搾取”はいかに論じるべきものであるか

マルクスの言説における倫理^{あるいは}義憤と科学を経済学的に峻別する

マルクスの説の価値はどこにあり、初学者が真に受けてはならない説は何であるか。昭和一桁の時代から夙にマルクスの学理に対する本質的な批判を唱えてきた経済学者が説く、マルクス評価のためにまず知らなければならない基本的な問題点。(書肆心水による論文選集)

小泉信三 (こいずみ・しんぞう)

1888年生、1966年歿。経済学者。東京生まれ。父は金融界の要職を歴任し当時慶應義塾塾長だった小泉信吉。1910年慶應義塾大学部政治科卒業後、慶應義塾教員となる。1912年からヨーロッパ諸国留学。1916年に帰国し、同大学教授となる。主な研究領域はリカードを中心とする古典派経済学。1933年慶應義塾塾長となる(1947年まで)。1934年リカード研究の論文で経済学博士号取得。1943年学士院会員となる。1949年以降東宮御教育常時参与となる。1959年文化勲章受章。

主な著訳書、『社会問題研究』(1920年、岩波書店)、『価値論と社会主義』(1923年、改造社)、『近世社会思想史大要』(1926年、岩波書店)、リカード著『経済学及課税之原理』(1928年、岩波書店)、ラッサール著『労働者綱領』(1928年、岩波書店)、『経済原論』(1931年、日本評論社)、『マルクス死後五十年』(1933年、改造社)、『アダム・スミス、マルサス、リカード』(1934年、岩波書店)、『社会思想史研究』(1947年、和木書店)、『共産主義批判の常識』(1949年、新潮社)、『私とマルクシズム』(1950年、文藝春秋新社)、『共産主義と人間尊重』(1951年、文藝春秋新社)など。

目次

III	II	I
私と社会主義	価値論上の効用説と費用説 搾取理論の根拠 搾取論 価値・価格・労働 過剰の労働者と過剰の商品	マルクス死後五十年 マルクシズム(講義要項) マルクシズム マルクシズム概観 唯物史観と共産主義的帰結 共産党宣言の今昔 「附録」ラッサールとマルクス

新刊 注文取扱返条付 (清藤)	取次番線印	部	批判的マルクス入門	7月下旬刊
	お名前		小泉信三著 ISBN978-4-906917-93-8 C0030 A5判上製 384頁 本体6900円+税	
			FAX 03-6677-0682 でんわ 03-6677-0101 http://www.shoshi-shinsui.com	書肆心水 Shoshi Shinsui

ご注文はJRCへ 03-3294-2177

すべての取次への出荷が可能です。返品は長期にお受け致します。(了解者JRC後藤)